

EDを治療して充実した人生に

全国で1000万人以上いると推計されるED(勃起機能の低下)の男性のために、効果の優れた治療薬が開発され、ED専門のクリニックも各地に増えてきました。ED治療を受けた多くの人たちは、性生活に対する自信を回復し、人生の充実感が増してきたと語ります。「ひとりで悩んでいないで、気軽に医師に相談してみよう」と、ED治療に経験の豊富な早瀬喜正先生はアドバイスします。

サンデー毎日
2006年8月13日号

CAMERA EYE

もつと気軽に 受診してほしい

■EDとはどんな病気ですか

満足な性交ができない背景には、性欲がわかない、射精がうまくいかない、などいくつかのケースがあるのですが、最も多くみられるのが勃起機能の低下(Erectile Dysfunction=ED)です。ペニス十分に硬くならない、硬さが継続しないという状態です。EDになる原因としては、糖尿病、高血圧、高脂血症といった生活習慣病、精神的ストレスなどがあり、飲酒や喫煙の影響もあります。脊髄損傷など神経の障害が原因となつているケースもあります。そして最も大きな要因は老化です。

■EDで受診する患者さんは増えていますか

年々増えています。特に今年になって急増している感じがします。40代、50代の働き盛りの方がたが多いです。昔に比べてEDに

関する知識が皆さんに普及しました。昔はインポテンツという、マインスイメージの言葉を使つていましたが、EDという明るい印象の言葉のおかげで、患者さんが気軽に受診できるようになったと思います。国内でも経口治療薬が2剤発売され、治療の幅が広がりました。

■それでもまだ躊躇されている方も多いようです

泌尿器科の敷居はまだまだ高いのかもしれませんが、うちのクリニックの前で3回引き返して、4回目に入ったと言われた方もいらつしゃいました(笑)。実際に診療を受けた後は、もつと早く来ればよかつたと言つておられました。患者さんの悩みに真剣に耳を傾けるのが私たち医師の仕事です。安心して受診してほしいですね。

うちのクリニック



早瀬喜正

丸善ビルクリニック院長 医学博士
医療法人正進会 名古屋泌尿器科病院理事長
日本泌尿器科学会評議員 日本泌尿器科学会ホストメンバー
日本泌尿器科学会指導医 日本泌尿器科学会専門医
厚生医療認定医

略歴

1967年名古屋大学医学部卒業。メーヨークリニック、ジョンズ・ホプキンス大学、ポーステル医学研究所などへ留学。名古屋大学医学部泌尿器科学非常勤講師、愛知医科大学泌尿器科学講師を経て、1981年に丸善ビルクリニックを開業

自転車の補助輪のように

■ED治療薬の効果は

いかがですか

では入口に置いてある申込書にチェック(レ)をして受付に出すだけで、あとは何も言わなくてもよいシステムになっています。プライバシーに配慮した個室で、できるだけリラックスしてお話していただけるよう、心がけています。

効果を実感して喜ばれる方がほとんどです。ED治療薬はいま2剤ありますが、それぞれ特徴がありますので、個々の患者さんに適したものを使い分けて処方しています。インターネットで並行輸入する方もいるようですが、医師の診察を受けずにこの薬を飲むのは危険な行為です。私たちは患者さんの既往歴を伺い、診察をし、安全に使用するための注意事項を説明しています。せっかく良い薬なのですから、正しく安全に使用していただきたいものです。

■EDの治療をすることの意義は どんなところにありますか

積極的に行動できるように。たとか、言葉のはしほしに自信がみなぎってくる方が多いです。セックスってこんなに重要な位置を占めているのかといつも思います。70代の方もおみえになります。歳をとれば男性ホルモンが低下して機能的な面は落ちてきて当然なのですが、しかし脳にはいつまでも性欲があるので。男性にとつてセックスは、いくつになつても尊厳やクオリティ・オブ・ライフにかかわることなんです。

いっぽう若い人にみられるのは、初めての性交がうまくいかつたことで、不安感をつらせ悪循環を起こす心因性のEDです。こちらは軽症のうちにもちよつと治療すれば治るケースがほとんどです。自転車に補助輪をつけるようなつもりでED治療薬を使つてもらいたい。いったんうまくいけば補助輪はいらなくなりますので、自信を回復して心が明るくなりますよ。

構成 高田昌彦